

北 河 内 会 報 自 然 愛 好 会

2016年8月20日 №.97
北河内自然愛好会発行
事務局：大東市野崎 3-7-7
西畑敬一 方

ホームページアドレス：<http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm>

第 375 回例会「深北緑地植物観察」大東市 2016年5月21日（土）

西畑敬一

晴天に恵まれた日、JR 野崎駅に集まったのは 9 名、昨年 7 月にミニ観察会を行った緑地公園の再度の観察会で定刻を少し遅れて出発。早速公園入り口の草むらに黄色い花を咲かせる植物を田中さんが案内、セイヨウヒキヨモギと言う半寄生植物だと言うことを教わる。田中さんは枚方市でセイヨウヒキヨモギの中に混生するヒサウツソウも見られている。入り口に入って直ぐの花壇ではオルラヤ（レース草属）が白い花を株一杯に咲かせていた。外回りコースを北に向かったところで大木のユリノキ（ハンテンボク）が花をつけ、歩道にはイヌカキネガラシやカラスムギ、オオキンケイギク、ヘラオオバコなどが見られた。マテバシイは昨年結実した実が大きくなりはじめ、その近くでは今年実をつけた小さな果実が見てとれた。

日差しも強くなってきたので歩道から下のコースに降りニワゼキショウとオオニワゼキショウの違いを観察。ここで遅れて来られた鈴木さん、高見さんと合流、参加者が 11 名になる。さらに歩をすすめて水門ちかくの原っぱでヒエガエリやハマヒエガエリ、ミコシガヤなどをみる。昨年の観察会で見られたハナハマセンブリが多くみられる広場は臨時のバーベキュー広場に変身。もっともハナハマセンブリの花期には少し早かったのでこれも良しとしよう。コース横の大池ではエビモやホソバミズヒキモが花穂をつけていた。標本として採集を行う。

丁度お昼近くになったので大池前の広場のシダレヤナギの木陰で昼食をとる。柳の木の上ではムクドリが、目の前のヨシ原ではヨシキリがしきりと鳴いていた。メンバーの山田さんはタモ網を取り出してしきりに水辺をすくい、小さな生き物を採集していた。聞くとメダカを掬っているとのこと、しかしここでみられたのは大半がカダヤシだった。他にもエビなども採集していた。

午後も園内を歩き、案内にもあったメリケントキンソウの姿や果実のイタイタ感を体験、道中、クスマツメクサやモンツキウマゴヤシ、タマオオスズメノカタビラ等を観察しながらハルニレやハネミノイヌエンジュの木を見に行く、ハネミノイヌエンジュはまだ花が付き始めた頃で、開花をみることはできなかった。最後に田中さんの案内でカロリナポプラのりゅうじょ（柳絮一白い綿毛のついた柳の種子のこと）を観察、また駐車場の縁石では初めて見る白花のユウゲショウを見せてもらった。近くの花壇のポピーやムギセンノウの花、ヤマボウシの花を見ながら、テニスコート近くで解散、四條畷方面と野崎駅に分かれて各々帰路に就く。田中さん、今回もサポート、ありがとうございました。

◎本日の観察植物：セイヨウヒキヨモギ、アオイゴケ、オルラヤ、カラスムギ、イヌカキネガラシ、オオキンケイギク、ヘラオオバコ、ユリノキ、マテバシイ、スダジイ、ニワゼキショウ、ウラジロチチコグサ、ヒエガエリ、ハマヒエガエリ、マツバゼリ、オオニワゼキショウ、ミコシガヤ、コモチマンネングサ、アゼナルコスゲ、ヒメガマ、エビモ、ゴキヅル、ホソバミズヒキモ、メリケンガヤツリ、イヌガラシ、ユウゲショウ、ノチドメ、オヘビイチゴ、トウバナ、クスマツメクサ、タマオオスズメノカタビラ、ハネミノイヌエンジュ、メリケントキンソウ、ハルニレ、ハコネウツギ、モンツキウマゴヤシ、カロリナポプラ、ハナビシソウ、ムギセンノウ、ヤナギハナガサ、ヤマボウシ、シロバナユウゲショウ他

◎参加者：鈴木永子、高見君江、田中光彦、中町芥子、中村公子、中山千代美、西畑敬一、波多野恵子、堀田尚志、山田良之、山田美鈴（以上 11 名）

第 376 回例会「飯盛山の植物観察と飯盛城」大東市・四條畷市 2016 年 6 月 18 日（土） 一人静

大きな晴れマークとこの夏一番の暑さ！の天気予報に一瞬心が怯む。でも何時も登っている飯盛山、それに最近見たコマツナギそっくりで 2 m 以上ある大きさが気になる植物、何者？か知りたいとの思いもあり、集合場所・野崎駅に行く。10 時、もうかなり暑い。日陰に移動し、今日の担当者・西畑会長の挨拶—植物観察は私が、飯盛城跡の案内は太田さんがします、暑くなりそうなので水分をしっかりと取り、熱中症に気を付けて行きましょう、と話され、野崎観音に向け出発しました。殆どの人は 120 段余りの階段から上がるのですが、今日は東高野街道を少し歩き、元参道の道へ入り、急坂を上がり山門に入りました。広い境内に本堂、小さなお堂、一段下に神社が並んで建っていました。その小さなお堂の横に長方形で石造りの穴があり、お堂と本堂の下を通り向こう側に抜けていて、子どもの頃その真っ暗な穴に入り、向こう側に抜けていて遊んだと西畑さん！さぞかしハラハラドキドキの楽しい遊びだったのでは？今出口は塞がれて無いそうです。改めて穴を見ると、真っ暗な穴が大きな欠伸をしているようでした。

本堂の横を通り、山道に入りました。ひと汗かき、平らな台地が上がってきました。案内板に郭跡と書いてあり、太田さんが郭（くるわ）とは？と質問。誰かが「廓！」（注—この「くるわ」は遊郭のこと。『広辞苑』には郭・廓・曲輪は全て「くるわ」）と言った冗談に太田さん苦笑。〔郭〕石垣や柵で囲った建物のあった所、とありました。

そこから少し下り、飯盛山のメインルート絵日傘道（通称七曲り道）を登りました。ひと汗もふた汗もかき、水分補給兼休憩をしながら、やっと七曲りを登り切った所にフシグロがありました。まだ花は咲いてなく、目立たない、でも可愛い花が咲いたところが見たいと思いながら通り過ぎました。数段ある階段を上り、何度目かの休憩。そこから辻の新池迄の道は割と平坦で、ホッとしながら歩く。辻の新池の柵の下に、小さくて可愛いイチヤクソウの花が所々に咲いていました。心和ませたのも束の間！終わりの見えない長い階段道が待っていました。喘ぎ、汗を流しながら登り切った少し先で、誰も何も言われないのに皆自然休憩！この場所は、以前オオバノトンボソウがあった所、今は土砂崩れでその場所が無くなり、丸太で出来た歩きにくい道になっていました。そこに道標があり、数日前歩いた時落とした K さんの帽子が掛けてあり、無事持ち主の手に！楽しいハプニングでした。

長い休憩も終わり、しばらく歩いた所で、太田さんが虎口（こぐち）です、と言われた。見ると道の両脇に大きな石が積み重なっていて、言われなければ虎口、お城の入り口とは気付かない！その先は千畳敷、住居のあった跡で、やや広い平地になっていました。すぐ傍に FM の鉄塔が見える。まだ鉄塔が建っていなかった時、そこを発掘していた人が、倉庫の跡です、でもすぐに埋め戻すとも言っていた事を思い出した。鉄塔の横を通り、ひと登りで三角点のある飯盛山の頂上に着いた。昼食タイム！暑いので食欲無いと思っていたのに、お弁当もおやつもしっかり食べた！

汗もひき、お腹も満足した後、太田さんの飯盛城跡の興味深いお話がありました。飯盛山は三好長慶が住んでいた山城で、公家や連歌師が出入りし、外国の宣教師も来た！府下のお城、大東は「首都」！だった等のお話を聞きながら、淡路島や六甲連山を見る。もちろんハルカスも！270°の展望とパンフレットには書いていました。

お話も終わり、頂上から下る細い道に入ろうとした時、チラッと楠正行さんの銅像が目に入りました。思わず、最近肩身が狭く有りませんか？と声をかけたくなった。下った所を少し行き、野面（のづら）積

みの石垣を見、公家や連歌師、宣教師達が上がって来た道を教えてもらった。この道は今でも登山道として使用されています。そこからすぐの所にある青少年野外活動センター横の小さな池の散策路に入り、スイレンやジュンサイと一緒にフトイ、ヤマトミクリ等を見た。ヤマトミクリは絶滅危惧種です、と西畑さんが言った。白い花と緑色のイガイガの実がとても可愛い。誰かが“エヘン虫”みたいと言った。緑色のイガイガを見て私も納得！そこから上の道路に上がった所にヤマトミクリが引き抜かれ黄色くなった束が捨てられていた。私はその中の、まだ緑色が残っている“エヘン虫”を一枝もらった。そこから帰り道の南尾根の分岐の所に、私の知りたかったコマツナギみたいなのはタイワンコマツナギとの事でした。南尾根を下り、また野崎観音の境内に入り、120 段の階段を降りた所で解散しました。暑かったけれど、植物とお城の実り多い観察会でした。

§§「飯盛山の植物観察と飯盛城跡」に参加して（稲原 ヒサエ）

梅雨の晴れ間の猛烈な蒸し暑さの中、JR 野崎駅に集まった野草好き 12 名の人達と野崎観音から飯盛城跡を目差しての植物観察です。印象に残った観察植物・説明を思い起こして記してみます。

道中 60cm 位の「ムラサキニガナ」が見られ、春に咲く黄色の「ニガナ」とは違い、かなり背が高かった。「ニガナ」とは属が異なり「アキノノゲシ」と同じ仲間だそうです。

「ムラサキシキブ」の花は葉の上側に咲き、「ヤブムラサキ」は下側（葉の付け根）に咲く。おしとやかな人はヤブムラサキと同じよ！と大笑いした。

「ナガバハエドクソウ」根を煮詰めた汁で蠅捕り紙を作ったことからこの名前が付いたらしい。

「ヤブミョウガ」の白い花が咲いていた。葉は茎をくると一周するように付く。

「ミョウガ」の葉は互生で、この二つの違いを見ることができて良く理解できた。

「ヤブヘビイチゴ」の赤い実が所々にいっぱいあった。美味しくないのか、虫も食べ残していた。

「アカメガシワ」の新芽は食用になるそうだ。私は食べられる植物を知ることが大好きである。

「タイワンコマツナギ」が群生していた。この木は高さ 2m 以上もあり、見上げるのがつらいほどの高さだった。花はハギに似ている。輸入品か又は種が靴などについて運ばれて来たようだ。和名種の「コマツナギ」は高さ 60~90cm 位で馬の手綱を繋いでも抜けない程強いのでこの名が付いた。

往路半ばの池で「緑亀（ミシシッピー赤耳亀）」と「ブラックバス」がいっぱいいた。ペットとして飼育できずに池に放したものが繁殖した様だ。あまりの多さに在来種の生態系が崩れることに無念な思いである。この池にはカワセミが良く来るそうだ。

「オオルリ」やテッペンカケタカと鳴く「ホトトギス」の鳴き声如山歩きで疲れた身体を癒してくれた。例会案内に紹介されていた「ササユリ」は見るができなかったが「イチヤクソウ」の花を見ることができてラッキーだった。この花はその名の通り、効能が 1 つで、全草を煎じると利尿効果があるそうだ。十字形の白い花を付けた「ドクダミ」は十葉と云われ 10 の効能が有るそうだ。花の咲いた頃に摘み取ると血圧を下げる効果があると教わったが、その真意は定かではないそうだ。虎のしっぽのような白い花、「オカトラノオ」が所々に見られ存在感を漂わせていた。

飯盛城本郭跡の展望台付近で昼食をとり、その後、太田さんより、飯盛城史跡と城主三好長慶について、準備くださった資料をもとに説明して頂いた。歴史が見えると城跡の値打ちが良く分かった。

織田信長に先んじて天下人として京都を制し、飯盛城入城後大阪を中心に四国、瀬戸内、日本海方面にまで勢力を拡大し、国内最大の影響力を持つ戦国大名に成長した。全盛期には飯盛城は三好政権が所有する首都であったと説明されていた。大阪平野を一望でき淡路の国、視界が良いと阿波の国、摂津、堺、270 度の展望から山城の国、京都まで見渡せる地理上の要の地として納得できた。当時キリスト教

の宣教師がこの地へ訪れ、三好長慶について本国の教会への報告された情報においても当時の天下人としての記載がある。又いち早くキリスト教を受け入れた家臣や交通の要所である集落で河内キリシタンを配し、多くの文物があふれたと説明があった。初めて学ぶ説明に感心することしきりだった。

間もなく、頂上近くの城跡石垣の野面積みの説明を受けて帰路につく。坂を下って間もなく「ギャー」という声の先に、尾っぽと足の長い「オナガバチ」がいた。人を刺すことはないが、木の幹に卵を産みつけるため針が長いと説明があった。何でも知っておられる西畑先生に初参加の方が感心しておられた。「頭の中に百科事典が詰まっているのよ」と言うとなるほどと又感心しておられた。

大東野外活動センター横の池には絶滅危惧Ⅱ類の「ヤマトミクリ」、ピンクの花の「スイレン」、「フトイ」、「オオアカウキクサ」等が観察できた。暑い時でしたが、皆さんのとても愉快的な会話と、楽しい観察・説明に、暑さも吹っ飛ば一日でした。例会担当の西畑さん、太田さん、ありがとうございました。

§§河内飯盛城について (太田 理)

中町さん、稲原さんの文と少々ダブりますが、簡単にまとめておきます。

飯盛城は、永禄3年(1560)織田信長に先駆けて「天下人」となった三好長慶が入城し、この山城は政権が所在する「首都」となった。戦国時代、都の京と畿内を統べる者が日本の統治者として認められ、ヨーロッパの文献にも、長慶が信長の前の統治者として描かれている。長慶は時の足利将軍を京より追放し、朝廷から事実上「武家の棟梁」と認められていた。また、長慶は戦国武将のステイタスとしての文人の素養も身に付けていて、それまでの居城や飯盛城で、当代一流の連歌師や文化人、公家たちを招いて度々連歌の会を催した。長慶はキリスト教の布教を許容。1564年飯盛城で家臣73名が洗礼を受け、また現在の大東市三箇や四條畷市砂・岡山に教会が建てられ、河内キリシタンが数千人に上るなど隆盛を極めた。

飯盛城は標高314mの山頂に構えられた大阪府下最大の山城。南北に分けて、北域は高櫓跡、本丸と呼ばれる曲輪(くるわ)を中心とした防御施設、南域は、現在FMの鉄塔が建っている辺りの千畳敷を中心とした面積の広い曲輪群で居住空間として利用されていたと考えられる。そして飯盛城の特質は石垣が用いられていること。自然石をほぼ垂直に積み上げる野面(のづら)積みと呼ばれる構造。権現川沿いに登るルートがメインルート(大手道)と考えられ、登城する人々、城を訪れる宣教師たちが誇示された石垣の威容さに圧倒される様が目に浮かぶようである。まさしく“天空の城”である。

現在石垣群もたくさん残っており、飯盛城の国史跡指定に向けて四條畷市・大東市の教育委員会が調査を始めている。市民サイドのサポート体制も整いつつある。長慶研究の進展で評価が高まりつつある。最盛時山城・大和・摂津・河内・和泉など11~15カ国を治め、山上から眺望できる地域を支配、視界270°の世界、京都~北摂~淡路~泉州の光景は圧巻です。大東市生涯学習センター・アクロスなどで長慶や河内キリシタンのシンポや講座が展開されている。11月26日(土)に四條畷学園短大ホールにて恒例の「関西城郭サミット」今年は“長慶 vs 信長”のテーマが予定されている。(関連参考書などより)

◎参加者：参加者 稲原良三、稲原ヒサエ、遠藤エチ子、小川晴美、太田 理、木村文子、久保幸子、中町苓子、西畑敬一、波多野恵子、発 ひとみ、丸山祝榮(以上12名)

第377回例会 「金剛山麓の自然」千早赤坂村 2016年7月3日(日)

波多野恵子

天気予報では小雨模様でしたが、お天気はすっかり回復し、暑さ対策が必要な1日になりそうです。いざ出発。コンクリートのなだらかな登り道、早速ツリバナ、シュウブソウ、ヤマジノホトトギス、

ヤマハッカ(秋に花)、ミツバが沢山、野生の三つ葉は香りが良いですネ。小吹の集落にクサノオウ(黄色花)。山の中を歩いたのに又集落が。歩いては集落、何回か集落が。夏は涼しいが冬は厳しいカナ、主婦にとっては、買い物も不便かなと思いつつながら。ホタルブクロがあちら此方に白い花を咲かせていました。12時を過ぎ、スギ林の道、風通しの良い道端での昼食となりました。

栗の子供が沢山実を付けていたり、ウバユリ、ヨシノアザミ、コモチマンネングサ、メキシコマンネングサ、その他色々。帰り道、下赤阪の棚田が見えて、大阪にも「日本の棚田百選」に認定されている所があるとは知らなかったです。改めて訪ねてみたいです。富田林霊園管理事務所にて一休みさせて頂き、富田林市農業公園(サバーファーム)を見て、無料送迎バスで近鉄富田林駅へ出て解散でした。

(注) 予定を変更して金剛山行きバスの途中の鳩の原バス停で下車、鳩の原から中津原を経て東阪バス停まで歩くコースに変更しましたが、ハイペースで進んだのでさらにそこから吉年を経て赤阪中学校前バス停まで棚田を見ながら歩くことにしました。しかし、その途端に道を間違え、こともあろうに広い墓地に出てしまいました。皆さんには不愉快な思いをさせ大変迷惑をおかけしました。お詫び致します。

(案内役の田中より)

◎当日観察した主なもの 1 イタドリ、2 オオバコ (花)、3 イヌガラシ (花)、4 ヒメジョオン (花)、5 オッタチカタバミ、6 ヘビイチゴ、7 アオカモジグサ (花)、8 カラムシ、9 ツクバネ (果実)、10 ドクダミ (花)、11 アオツヅラフジ、12 タチシノブ、13 ヨモギ、14 ホタルブクロ (花)、15 ハナイカダ (花)、16 ヤマハッカ (花)、17 ヒメカナワラビ、18 クズ、19 セイタカアワダチソウ、20 コバノヒノキシダ、21 ヒメツルソバ (花)、22 トウバナ (花)、23 チャセンシダ、24 ノブドウ、25 アキノノゲシ、26 ヤマユリ (蕾)、27 ヒヨドリバナ (花)、28 スミレ sp (コスミレ?)、タチツボスミレ?)、29 クサノオ (花)、30 ナガバハエドクソウ (花)、31 ヤブマオ、32 ミツバ (果実)、33 コハコベ、34 オニユリ (蕾)、35 ヤマハタザオ (果実)、36 ウバユリ (蕾)、37 イノコズチ? 38 ヤブミョウガ、39 マメヅタ、40 ミズタマソウ (花)、41 ヤブガラシ (花)、42 チヂミザサ、43 カキドオシ、44 メキシコマンネングサ (花)、45 マンネングサ sp (花)、46 イヌホオズキ (果実)、47 ハゼラン (花)、48 ナンテン (花)、49 ノゲシ (花)、50 ツタバウンラン (花)、51 マツバギク (花)、52 エノコログサ (花)、53 アメリカセンダングサ、54 ヤブラン、55 ユウゲショウ (花)、56 ニワゼキショウ (花)、57 ナギナタガヤ (果実)、58 ヒメコバンソウ (立枯れ)、59 ネジバナ (花)、60 セイヨウタンポポ (花)、61 ヤワゲフウロ (花)、62 スイバ (果実)、63 ナワシロイチゴ、64 ダンコウバイ、65 ヤブニンジン (果実)、66 オトギリソウ (果実)、67 メリケンガヤツリ (果実)、68 ホソイ (果実)、69 クサイ (果実)、70 ヤブヘビイチゴ (果実)、71 カナムグラ、72 エノキグサ、73 ウド、74 オヤブジラミ (果実)、75 シシウド、76 スギナ、77 キダチコマツナギ (花)、78 シュロ (果実跡)、79 ミズ、80 アメリカイヌホオズキ (果実)、81 ワラビ、82 カエデドコロ、83 ウマノスズクサ、84 ブタナ (花)、85 ツルマンネングサ、86 マルバマンネングサ、87 コウライテンナンショウ (果実)、88 クリ (果実)、89 クサイチゴ、90 アレチギシギシ (果実)、91 メヒシバ、92 ヨウシュヤマゴボウ、93 ミツデウラボシ、94 ミズヒキ、95 クジャクシダ、96 ヒレハリソウ、97 トキリマメ (花)、98 ハグロソウ (花)、99 ミヤマカタバミ (果実)、100 ホウチャクソウ (果実)、101 ムラサキカタバミ (花)、102 シロツメクサ (花)、103 ツルニンジン、104 コマツナギ (花)、105 セイヨウアジサイ (花)、106 ネコハギ、107 ヘクソカズラ、108 ネムノキ (花)、109 アキノエノコログサ (花)、110 ノアザミ (花)、111 ハキダメギク (花)、112 クワクサ、113 アオキ (果実)、114 クチナシグサ (果実)、115 ナガバジャノヒゲ (花)、116 シュンラン、117 コ克蘭、118 ナツメ (花)、119 カニクサ、120 ヤマジノホトトギス、121 ササバギンラン (果実)、122 ノチドメ、123

ゲンノショウコ、124 ヤブマメ、125 キツネガヤ（花）、126 キンラン、127 アレチハナガサ（花）、128 セイバンモロコシ（花）、129 マルバノキ、130 タチスズメノヒエ（花）、131 ハゼノキ（果実）、132 カナビキソウ、133 コヌカグサ（果実）、134 アレチヌスビトハギ、135 ヒナタイノコズチ

◎キリギリス声、ウグイス声、ホオジロ声、ヒヨドリ声、スズメ声（以上北川さん）

◎参加者：粟田泰子、稲原ヒサエ、狩野登之助、北川ちえこ、鈴木永子、田中光彦、中町荅子、中山千代美、西畑敬一、波多野恵子、発ひとみ、堀田尚志（以上12名）

《会員交流コーナー》

§§<犬も歩けば>早朝 6 時前、星田新池には山の新緑が映えた水面をキンクロが泳いでいて、山ではコジュケイの弾んだ声が響いていました。歩いていて楽しいものの一つは道端の雑草の小さな花と実です。いま屈み込んで触りたい気を起こさせるのはペンペン草です。この赤子の手のような可愛いペンペンの撥（ばち）（添付）、思わず手が伸びます。出会った野鳥＝コジュケイ、ウグイス、ムクドリ、スズメ、ハシブトガラス、ツグミ、キンクロヒジロ、ヒヨドリ（4/15・平 研）

§§<今年もイカリソウ>今年もイカリソウが咲きました。権現の谷登山道（4/18・西村寿雄）

§§<フクロウ 3 兄弟>今年、飯盛山系で育ったフクロウ 3 兄弟です。先日、バンディングが行われました。宝塔神社（4/20・西畑敬一）

§§<私市植物園>1. 谷の奥にムサシアブミがあちこちに咲いていました。

2. ここでは数少ないホオジロが、芝生の中の小さな草の種子を探して食べていました。

3. 北帰行を控えたツグミは、芝生の中を走っては、ふる里の方の空を眺めていました。（4/21・平）

§§<犬も歩けば>1. キンクロの北帰行。早朝の星田新池で、私を出迎えていてくれていたキンクロの群れが一昨日から姿を見せません。北帰行の旅に付いたのでしょうか。池ではカルガモとカイツブリだけが、雨で洗われた新緑を写した水面を寂しそうに泳いでいました。

2. 星田妙見の歩道の青いサクランボを見ていて、この春大学を出て就職した半人前の青臭い孫の姿が思い浮かんできました。

3. 円網を張るクモが出てきました。円網は飛ぶムシを目当てに張るものですから、このクモは飛ぶムシが出現する時期になって初めて出てきます。ムシの動きがこれから活発になって来ることをこのクモが教えています。

4. 例の溝の柵には、クヌギカメムシの幼虫が這っていました。この溝の柵もこれから楽しみです。

（4/22・平）

§§<犬も歩けば>1. 今朝の星田新池は、昨日の雨風で、散った山のサクラの花びらで水面が覆い尽くされていました。

2. サクラに代わって水鏡に薄紫の姿を写してきたのはフジでした。（我が家の玄関にも 40 年来の花を今年も咲かせました）。

3. 池への道端の藪に巣を張ったシロカネグモは巣の真ん中の下側で、下向きに止まっていた。<下側に下向き>いざという時に備えた体勢です。（私たちが<いざ>に備えた体勢、考えさせられますね）。（4/23・平）

§§<犬も歩けば>今朝（6 時前）の星田新池、昨日とはうってかわり、落葉一つ浮いていない鏡の水面は、朝靄の新緑を写して静まり返っていました。カイツブリもカルガモも何処に潜んでいるのか、動くものは何一つありませんでした（添付）。途中のバス道の山側のフェンスの支柱には綺麗な蛾が止まっていた（添付）。帰って調べたらギンボシリングアという名の蛾でした。ミツバツツジを食草にしてい

るそうです。外国では朝鮮半島にいたとか、特異な蛾のようですね。(4/24・平)

§§<ムシと鳥>今日、いきものふれあいセンターの外階段の手すりに、赤い虫が目について撮影。調べて見たら、ベニボタルの仲間のカクムネベニボタルに落ち着きました。ホテルと云っても光ることはなく、毒性も持たないとのこと、擬態でしょうか(添付)。天野川では、コチドリが河川敷の川原を走っていました(添付)。(4/25・平)

§§<教えて>今日、畑で草刈りをしているときに見つけました。ケムシが背負っているのは自身のタマゴでしょうか、それとも何かに寄生されたんでしょうか、どなたか教えてください。(4/26・西畑)

§§<ビオトープにカワセミ>南星台のビオトープ(ホテルの繁殖の流れ)にカワセミ♀が現れて、泳いでいるオタマジャクシを採って食べていました(添付)。このあたりで営巢しているのかも?カワトンボも来て青く輝いてくれました(添付)。いろいろな生き物がいろいろな生き様を見せてくれる、これこそビオトープと云える水辺となってきました。洪水で埋まっても、まちづくり委員会のビオトープグループがたゆまぬ努力を払ってきた賜物です。地域で守っています。(4/26・平)

§§<4/26 回答>コマユバチだと思いますが。(4/27・西村)それは、コマユバチの繭ではありませんか。コマユバチはケムシの体内に卵を生み込んで、体内で育った幼虫は、体外に出て繭を作ります。その繭がケムシの体についているのだと思われます。(4/27・平)コマユバチの繭、ご教示ありがとうございました。見慣れないものでびっくりしました。(4/29・西畑)

§§<岡田さんの遺作展>岡田さんの遺作展を見せてもらいました。ガンと闘いながら、幾ばくも無い自分の命を感じながら、よくもこれだけの絵を描いたなと先ず驚嘆。F22号の大きなもの7点、と4号ぐらいのもの数点、描かれている幾百枚の木の葉っぱの一枚、一枚に一つの乱れもない。一枚一枚それぞれが一樣ではなく、それぞれに個性が描きこまれている。これが重症なガン患者の絵か、柔和な岡田さんの奥底にたぎる画家としての精神力、ど根性がいささかも衰えていない。

しかし、大きな絵では最後の作品と聞かされた絵には、今まで描れたことのなかった鮮烈な赤色に塗られたバラの花が描かれていました(添付)。岡田さんの命の最後のたぎりが、一日の終わりを告げる夕映えの様に、赤いバラとなったのでしょうか。目頭が熱くなるのを覚えながらその前から離れられませんでした。

わたしの89年の人生、こんな人と出会い、こんな作品を見せて貰い、ここまで生きてきてよかった。でも、もうこの人と会うことも、話すこともできない。(4/29・平)

§§<琵琶湖のカモ>今日は天気が良いので、ドライブしたいなど、婆さんと二人で、ポンコツマイカーで新緑の琵琶湖一周を走りました。爽快でした。車窓から見た湖面には、キンクロとコガモの僅かな群が見えただけで、寂しい琵琶湖でした。(5/1・平)

§§<犬も歩けば>1. 水鳥が姿を消した今朝の星田新池では、朝日に映えた新緑の中からはウグイスの弾んだテリトリソングが響いてきました。

2. 道端の草叢では、フクラスズメが派手な夏衣装を誇らしげに見せびらかしていました。

3. 例の溝の柵のナナフシは、カメラを近づけても慌てる様子も見せず、物憂げにおっとり、前足一本を動かしました。(5/4・平)

§§<ムシに惹かれて>この季節、星田園地への川沿いの路の柵にたむろするムシたちの、私を呼ぶ声が大きく聞こえてきて、今日訪れました。

1. ムカデがケムシを食べていました。毛もむしらずムシャムシャと、美味しそうでした。このムカデはやがてヒヨかムクカタヌキに・・・生きものたちの命の生きざまの一齣を見せられました。

2. ナナフシが落ち葉を食べていました。このムシ飛ぶことをやめて落ち葉をたべて命をつなぐのか。

3. カゲロウの一種、シロハラコカゲロウ、成虫になってわずかな時間の寿命を子孫を残すだけに使い切って終える。生きものの生きる最終目的を如実に見せるムシである。(5/4・平)

§§<犬も歩けば>今年も出会いました。何時もの溝の柵に、小さなコケの固まりが動いていました。「これだ、クサカゲロウの幼虫だ」と、3年前の経験からピーンと来ました。装いの晴れ着(コケ)は新鮮でした。普通は、自分が食べた食べかすで装っているのですが…。このムシ、卵の時は「ウドンゲの華」と呼ばれ、成虫は薄緑の透き通った翅の、なよなよとした綺麗なムシです。ムシは面白い。(5/14・平)

§§<犬も歩けば>星田園地の柵で、紐のないミニミニのワラジが歩いていました(添付)。和名=オオワラジカイガラムシの幼虫でした。人間の草鞋はこのムシに教えられたのでしょうか。傍示川の欄干を8本足のアリが歩いていました。しかし、アリは昆虫で肢は6本のはず、だとするとこれはクモか?和名=アリグモでした。何のためにアリに擬態?こんな生きもの、鳥を意識しているのでしょうかね。どんなムシと出会えるか、毎日がワクワクです。(5/16・平)

§§<犬も歩けば>5月の路傍には、白い花が映えていて、5月らしく、いいですね。ノイバラとウノハナは、奥の細道の白河の関を思い出させます。芭蕉が通った時、ノイバラとウノハナが咲いていました。「卯の花をかざして関の晴れ着かな」曾良 ちょんまげ頭に白いウノハナの簪を挿した姿、いいですね。私も帽子に…。ハナバチは花粉を頂戴していました。(5/20・平)

§§<深北緑地のバン若鳥>今日の深北緑地、橋の横のヨシの中に動く黒いものがあり、よく見たらバンの若鳥でした。もう親から離れており、雛ではありませんでした。私の顔を見て草叢に隠れました。観察会の皆さんとは出会えなかったが、得心して帰りました。(車で単独行)(5/21・平)

§§<太子橋の野草ほか>昨日、豊里大橋~城北大橋まで調査をしてきました。豊里大橋手前の民家の玄関前溝でネバリミノツヅリを見ました。ただ、初めて見ましたのであっているか同定をお願いします。また城北大橋手前のワンドでヤガミスゲのようなスゲを見つけました。写真で同定できるようでしたらお願い致します。根までとれませんでした。一応押し葉にしておきます。送って分かるなら送付します。

3年ぶりにこの辺りに来ましたが、ナヨクサフジがずっと点在して咲いていて、中には大きな群落もありました。豊里大橋付近の河川敷入口の堤防にはナヨクサフジと共にセイヨウヒキヨモギも沢山咲いていました。これらは今までの調査では確認していませんでした。工大グラウンドの左岸はきれいに草が刈られ、土がむき出しになり先のワンドまで見渡せました。この間アレチウリの実生を沢山見ました。

私事ですが我家のベランダの鉄柵にセグロアシナガバチが巣を作っていました。このような事は初めてでしたが、まだ女王バチだけでしたので蜂さんには悪いですが撤去しました。(5/23・北川ちえこ)

§§<花のうてなのチビハンター>花のうてな(注一「うてな」く(台(うてな)の意から)花の萼)で、チビハンターが獲物を待ち構えていました。親は卵を産み付けるだけで、生まれてきても食べさせてはくれません。生まれてすぐから自分で小さな斧を振りかざし、小さな足で獲物を狩らねばなりません。けな気にも素晴らしい生き様、ムシは楽しいです。(5/28・平)

§§<自宅の庭>自宅の庭でこんなん撮れました。

1. ウマノズクサを食草とするジャコウアゲハの蛹です。何か、お人形か埴輪に似ていませんか?
2. スミレの仲間を食草とするツマグロヒョウモンの終齢幼虫です。
3. 田中光彦さんから頂いた、クロウメモドキ科のネコノチチの花です。小さな花の中でアリが蜜を探しています。(5/30・西畑)

§§<山田池公園>今日、家内の足の運動を兼ねて、山田池公園の菖蒲園を歩きました。老若男女で賑わっていました。鳥は、アオサギ、ダイサギ、コサギ、カイツブリ、カワウ、オオヨシキリ、カラス、

スズメ、セグロセキレイ、運よくムラサキシジミにも出会いました。(6/2・平)

§§<犬も歩けば>こんなクモに出会いました。前肢に全方向に向けた針を備えたクモ(ササグモ)、獲物を捕らえるためのトゲではないですね。護身用でしょうか。でも、ちっぽけなムシの凄い生き様ですね。(6/3・平)

§§<庭のクモ>噛み合いの喧嘩をしているようなチュウガタシロカネグモを、庭で見つけました。カメラを近づけ過ぎて逃げられました。(添付)調べたら、交尾をしていたようです。交尾後、メスに食べられることがあるとのこと、最後まで見られず残念でした。このクモは、どこの草叢でも見られる普通のクモです。(6/13・平)

§§<ホソオチョウほか>先日、有志で木津川の流れ橋へ行きました。もうはるか昔に2度ほど行きましたが、きれいになっていたのでそう感じたのかもしれませんが、橋が高くなったように感じました(水もなかった)。流れ橋へ行く途中で、ひらひらと頼りなく舞うチョウがいたのですが、ホソオチョウでした。木津川で一度見たことがあったのですが、すっかり名前を忘れていました。堤防にはムラサキツメクサとノアザミがずっと咲いていました。カラスムギの立枯もきれいでした。出発前に八幡さんへお参りしたのですが、途中、ブナ類にカシナガキクイムシ対策がしてあり、容器の中に幼虫が沢山いました。このような装置はうわさでは聞いていましたが、見るのは初めてでした。自分一人で行けるところではありませんので、誘っていただいて感謝しています。平さんのようにうまく撮れなくて、ぼけた写真ばかりでお許し下さい。(6/13・北川)

§§<舞え舞えカタツムリ>舞え舞えかたつむり…。平安の流行歌(梁塵秘抄)。今の世にも忘れずに舞っていました(植物園)。(6/18・平)

§§<コウガイヒルの再生>門扉の下を20cmぐらいの長さのコウガイヒルが這っていました。切れてもすぐ再生すると聞いていたので、

1. 寸断してみました。2. 3分後には切られた部分がそれぞれに動き出し、3. 5分後にはそれぞれの方向に這い出しました。凄い再生能力に驚嘆。人間の再生医学、羨ましいですね。(7/2・平)

§§<犬も歩けば>用事が出たついでに天野川の堤防を歩きました。どの木にもクマゼミのヌケガラ、面白い格好のやつを写しながら歩いていたら、なんと、見るも無残なこんなものに出くわしました(添付)。これから羽化しようと、背中を割って出ようとしているところをアリに襲われてしまったのか、羽化の途中でアクシデントが起きて羽化失敗、息絶えて朝、アリの餌食になってしまったのか、アリにとっては大饗宴。食物連鎖の野生の一齣を見せてもらいました。(7/14・平)

§§<今年のムシたち>私が住む地域の、まちづくりの会の中の自然観察グループが、山の中でカブトムシの飼育をしていますが、今年はまだ1匹も羽化しておらず、トラップには例年ならば、一晩で10匹も入っていたカナブンも全然です。そういえばケムシ、イモムシもあまり見かけません。ムシの世界に何かが起こっているようです。(7/17・平)

§§<タマムシ>昨日、妙見宮横の妙見川の岸で、切り倒された木にタマムシが光っていました。久しぶりの出会いです。鳥除けの輝きは、人間にはどうでしょうか。私が手を出しても、慌てて逃げようとはしませんでした。(7/19・平)

§§<天野川左岸>家内の診察待ちの時間、天野川を歩きました。暑かったが、鳥、虫、魚がそれぞれの生きざままで迎えてくれました。(添付)

1. クマゼミは地中で7~8年生きて、地上での一週間あまりの卵を産むための短い命の時間を大声で惜しんでいました。
2. ハシブトガラスが啜えたクマゼミは、束の間での産卵は終えたのでしょうか。

3. 川の中では、あちこちの砂の川底で、オイカワが産卵行動をしていました。

4. ケリの子は親の後を追いつながら浅場で餌を探していました。(7/29・平)

§§<犬も歩けば>今朝、クマゼミ♂が道に落ちていました。繁殖のためだけに地上に出て来て10日ぐらい?このクマゼミ♂、己に課せられた使命を果たし終えたが故の往生でしょうね。私も♂としての使命は遠くの昔に果たし終えているのですが…。(7/31・平)

§§<犬も歩けば>妙見河原で腰を降ろしたら、目の前にカエルがいました。このカエル、見事な忍法土遁(どとん)の術、鳥の目は欺けても、へびの目を欺けるでしょうか。(8/1・平)

§§<犬も歩けば>こんなものに当たりました(添付)。ヤブキリにアリが無数にたかっています。それは、生きものたちが生きていく「命のリレー」の有様でした。(8/4・平)

§§<暑中お見舞い申し上げます>この夏、たまらなく暑いのです。このコサギ、耐暑の白装束でも暑いようで「しぶきのかかるここは最高」と、言っているようです。毎日、マイクッキングのニガウリのちゃんぷるーを食べています。元気です。(8/14・平)

◎会員異動について(敬称略)

退会: 犬伏百合子(寝屋川市・4/22)、中村公子(交野市・12/31 予定一申し出は5/31)

◎編集後記: 今回の熊本地震では震度7が2回、甚大な被害をもたらし、その後余震が長く、不安な日々が続き、今尚避難所生活をされている方がいる。私事ですが、小3の孫が熊本・八代にいます。被害は幸い微弱だったようだが、学校が避難所になっていて行けない。親は仕事に出なくてはならず、孫は大阪に“避難”して来た。家が古い同級生の中には避難所に行っている子もいたそうです。阪神淡路、東北に続き、まさか熊本が~?!今一度防災を考えなければならないでしょう。立秋も過ぎ、お盆も過ぎてもこの暑さ、(自分も含めて)皆さま、ご自愛の程を。編集等について皆様のご意見ご要望、またお気軽なご投稿をお願いいたします。(太田)

【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長: 西畑敬一 072-876-8114

◇会費の納入・会計に関して: 稲原良三 072-892-8507

◇会報の投稿・編集に関して: 太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。 ma36ux75ml@kcn.jp 〒575-0013 四條畷市田原台7-5-2

北河内自然愛好会 年会費 1000円 郵便振替 00970-4-103735

目次

第375回例会「深北緑地植物観察」西畑敬一-----1

第376回例会「飯盛山の植物観察と飯盛城」一人静-----2

「飯盛山の植物観察と飯盛城跡に参加して」稲原ヒサエ---3

「河内飯盛城について」太田 理-----4

第377回例会 「金剛山麓の自然」波多野恵子-----4

会員交流コーナー-----6

会員異動、編集後記-----10

例会案内-----別刷

カラーグラビア版-----別刷

岡田雅彦氏画「ハギ」

